佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（小学校　生活科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。このリーフレットは，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校生活科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　小学校生活科における学習評価の進め方
4　小学校生活科における学習評価事例
5　小学校生活科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・表現」**
「技能・表現」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　生活科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

具体的な活動や体験を通して，自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，**自立への基礎を養う**。

※ 波線と太字は教育センターによる。

○　教科目標については，これまでの理念の重要性を再確認し変更されていません。

生活科の目標を端的に表すと,「具体的な活動や体験を通して，自立への基礎を養う。」となります。生活科の学習を進めていく中で,「自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもつこと」「自分自身や自分の生活について考えさせること」「その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせること」が重要となってきます。

・目標の構成図

具体的な活動や体験を通して

・自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもつこと
・自分自身や自分の生活について考えさせること
・生活上必要な習慣や技能を見に付けさせること

自立への基礎を養う

2　評価の観点及びその趣旨

○　評価の観点についても，低学年の特質を生かした観点であるため，変更されていません。

生活科の評価の観点についても，変更はあっていません。これは，これまでも低学年の特質である「思考と表現の一体化」を生かした指導を重視してきたからです。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な環境や自分自身に関心をもち，進んでそれらとかかわり，楽しく学習したり，生活したりしようとする。	具体的な活動や体験について，自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって，自分と身近な人，社会，自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

3　第１学年及び第２学年の評価の観点の趣旨

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な人，社会，自然及び自分自身に関心をもち，進んでそれらとかかわり，楽しく意欲的に学習したり，生活したりしようとする。	調べたり，育てたり，作ったりするなどの活動や学校，家庭，地域における自分の生活について，自分なりに考えたり，工夫したり，振り返ったりして，それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって，学校，家庭，地域，公共物，身近な自然，動植物，自分の成長などの様子，それらと自分とのかかわり及び自分自身のよさに気付いている。

小学校生活科における学習評価の進め方

○「生活への関心･意欲･態度」は，

この観点では，児童が学習対象に対してどのようにかかわろうとしているのかを評価することが重要です。

身近な人々，地域の様子，草花や野菜，自分の生活などに対してどの程度関心をもち，どの程度意欲的にかかわろうとしているかなどを見取っていきます。

そのため，授業中の様子について見取っていくことはもちろんのこと，栽培・飼育活動においては，朝の時間や休み時間など日常的にお世話をしている姿も見取っていくことが大切になってきます。また，地域とかかわる活動においては．放課後や休日を使って地域に出かけ，かかわろうとした姿などのように，授業時間以外の姿を評価していくことも大切になってきます。

【主な評価方法】

・行動観察　・発言内容　・振り返りカードの記述　・日記　など

○「活動や体験についての思考･表現」は，

この観点では，児童が具体的な活動や自分の生活について，自分なりに考えたり，工夫したりしている姿や，楽しかったこと、考えたことや工夫したことを，すなおに表現している姿を評価することが重要です。

学校や地域の様子について見聞きしたり，生きものや植物のお世話をしたり，おもちゃや遊びを作ったりするなど，自分の生活について自分なりに考えたり，工夫したり，活動を振り返ったりしている様子を見取っていきます。

そのため，活動している児童の姿から，どのようなことを考え、どのようなことを行っているのかを見取っていきます。必要に応じて，児童に問い掛けながら把握していきます。

また，自分が感じた活動や体験の楽しさ，活動の中で工夫したことや考えたこと，振り返ったことなどを自分なりにすなおに表現している姿を見取っていくことも重要です。

そのため，発表の出来映えのみを評価するのではなく，その児童らしい表現内容や方法等について見取っていくことが大切です。

【主な評価方法】

・発言内容　・発表方法　・招待状の内容　・設計図の記述内容　など

○「身近な環境や自分自身についての気付き」は，

この観点では，具体的な活動や体験を通して，どのような気付きが生まれたかを評価することが重要です。

気付きには，学習対象に対する気付き，学習対象と自分とのかかわりへの気付き，自分自身への気付きなどがあります。

ねらいとする内容や学習活動に応じて，どのような気付きが生まれたのかを見取っていきます。取り扱う内容によっては，休み時間や放課後といった授業以外での活動で気付きが生じる場合もあるので，いつでも児童が書きとどめていけるように，学習カードを常備しておくことも考えられます。

【主な評価方法】

・発言内容　・学習カードの記述内容　・振り返りカードの記述内容　など

評価規準の設定の仕方

活動の中心となる内容を整理して、設定することが大切です。

評価規準の設定にあたっては，国立教育政策研究所から示されている「評価規準の作成のための参考資料」(以下参考資料)に示されている評価規準の設定例を参考に，内容等の特徴に応じて設定します。複数の設定例を参考にすることで，学校の特質に応じた評価規準を設定することができます。以下に，評価規準の設定例を挙げていきます。

１　１内容で１単元を構成する場合…内容(７)「動植物の飼育･栽培」

○「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にして「単元の評価規準」を設定するとともに，「評価規準の設定例」を参考にしながら，学習対象や学習内容に応じて「学習活動(小単元)における評価規準」を設定していきます。ここでは，昆虫や小動物の飼育単元を基に，評価規準の設定例を示していきます。

◎参考資料に示されている【「動植物の飼育･栽培」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
動植物やそれらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，生き物に親しんだり，大切にしたりしようとしている。	動物を飼ったり植物を育てたりすることについて,自分なりに考えたり，工夫したり，振り返ったりして，それをすなおに表現している。	生き物は生命をもっていることや成長していること，生き物と自分とのかかわりに気付いている。

○学習対象として昆虫や小動物を飼育する場合は，「昆虫」「小動物」といった文言を使用し，学習活動を考慮しながら設定します。

◎【「動植物の飼育･栽培」の評価規準に盛り込むべき事項】を参考に設定した単元の評価規準例

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近にいる昆虫や小動物に関心をもち，触れ合ったり世話をしたりしようとしている。	昆虫や小動物の様子を見ながら工夫して世話をしたり触れ合ったりし，自分が世話をしたことや昆虫や小動物のことについてすなおに表現している。	昆虫や小動物とかかわることで，それらは，生命をもっていることや成長していること，お世話し続けている自分に気付いている。

○「学習活動(小単元)における評価規準」を設定する際には，参考資料にある【「動植物の飼育・栽培」の評価規準の設定例】を参考にしながら，学習対象や学習活動に応じて設定します。

◎【「動植物の飼育・栽培」の評価規準の設定例】を参考に設定した学習活動(小単元)における評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
・昆虫や小動物に関心をもって探したり，採ったり，育てたりしようとしている。 ・昆虫や小動物が育つ場所，成長の様子に関心をもち，世話をしようとしている。 ・育てている昆虫や小動物をかわいがり，繰り返しかかわろうとしている。 ・昆虫や小動物に親しみをもち，それらを大切にしようとしている。	・育ててみたい昆虫や小動物を選んだり決めたりしている。 ・昆虫や小動物の育つ場所，成長や変化について考え，世話の仕方を工夫している。 ・昆虫や小動物の立場に立って考え，世話の仕方を工夫している。 ・育ててきた昆虫や小動物とのかかわりを振り返り，自分にあった方法で表している。	・昆虫や小動物の特徴，育つ場所，成長の様子に気付いている。 ・育てている昆虫や小動物にあった世話の仕方があることに気付いている。 ・昆虫や小動物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ・昆虫や小動物への親しみが増し，上手に世話ができるようになった自分自身に気付いている。

2　複数内容で１単元を構成する場合…内容(５)「季節の変化と生活」
内容(６)「自然や物を使った遊び」

○取り扱う内容を複数にする場合は，それぞれの内容に対応した「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考に，学習対象や学習活動に応じて組み合わせたり，融合したりして「単元の評価規準」や「学習活動(小単元)における評価規準」を設定します。ここでは，おもちゃ作り単元における評価規準の設定例を示しています。

◎参考資料に示されている【「季節の変化と生活」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な自然，季節や地域の行事に関心をもち，それらとかかわる活動を行うなどして，楽しく生活しようとしている。	四季の変化，季節によって生活の様子が変わることについて，自分なりに考えたり，振り返ったりして，自分たちの生活を工夫し，それをすなおに表現している。	四季の変化や季節によって生活の様子が変わること，それらと自分とのかかわりについて気付いている。

◎参考資料に示されている【「自然や物を使った遊び」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な自然や物を利用した遊びに関心をもち，みんなで楽しく遊ぼうとしている。	身近な自然や物を利用して遊びを考えたり，遊びに使う物を自分なりに工夫したりして，それをすなおに表現している。	遊びや遊びに使うものをつくる面白さ，自然の不思議さ，みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。

○学習対象としてドングリや松ぼっくりといった秋の木の実，作るおもちゃ，あそびを取り扱う場合は，それぞれの文言を使用し，学習活動を考慮しながら設定します。ここでは，秋の自然物でおもちゃをつくったり遊んだりする活動を中心に設定しています。

◎参考資料を基に設定した単元の評価規準例

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
秋の木の実や葉っぱといった自然にかかわったり，秋の自然を利用して友達と一緒に楽しく作ったり遊んだりしようとしている。	秋の木の実や葉っぱといった自然とのかかわり方を考え，秋の自然を利用して遊ぶものを工夫して作ったり，友達と楽しく遊ぶための方法を考えたりして，それをすなおに表現している。	秋の木の実や葉っぱといった自然とかかわることや友達と一緒に遊ぶと楽しいこと，秋の自然とかかわることができるようになった自分のよさに気付いている。

◎単元の評価規準を基に設定した評価規準の設定例

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
・木の実や葉っぱに関心をもち，進んで探したり拾ったりしようとしている。 ・木の実や葉っぱを使って，おもちゃや遊びをつくろうとしている。 ・友達とかかかわりながら，みんなで楽しく遊ぼうとしている。	・諸感覚を使って，身近な自然を観察している。 ・木の実や葉っぱをもとに，遊びを考えたり使ってみたい物を見付けたりしている。 ・遊びを工夫したり，友達とかかわって遊んだりしたことを振り返り，自分なりの方法ですなおに表現している。	・身近な自然の様子や特徴に気付いている。 ・身近な自然や物を利用して遊べることに気付いている。 ・友達とかかわって遊ぶ楽しさ，友達の良さや自分との違いに気付いている。

小学校生活科における学習評価事例１

■　単元全体を通した，学習評価の進め方が分かる事例

・事例１の単元では，14時間の学習計画を立てて，計画的に観点別評価を行うことにしました。１単位時間に１～２つの評価規準を設定するのが適当となっていますので，ここでは，１つの活動に対して１つの評価規準を設定しました。

１　単元名　わくわく　どっきどき　たんけんたい　第２学年　内容(３)「動植物の飼育・栽培」

２　単元の目標

自分たちが生活している地域の様々な場所や人々とかかわる中で，自分の生活は様々な場所や人々とかかわっていることが分かり，それらに親しみをもちながら適切に接することや安全に気を付けながら生活することができるようにする。

３　単元の評価規準　**※学習活動(小単元)における評価規準とは，小単元における学習活動の評価規準を示す。**

		生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
単元の評価規準		自分が生活している地域の公共施設や自然，それらを支えている人々関心をもち,親しみや愛着をもって，それらと適切にかかわったり安全に気を付けながら，友達と一緒に探検しようとしている。	自分が生活している地域を探検する中で，地域の公共施設や自然，それらを支えている人々と適切にかかわることや，安全に生活することについて自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現している。	自分が生活している地域の公共施設や自然，それらを支えている人々にかかわっていく中で，自分の生活がそれぞれとかかわりをもっていることが分かり，地域のよさに気付いている。
学習活動(小単元)における評価規準	1	①自分が生活している地域の場所や人々に関心をもち，かかわろうとしている。	①探検したい場所や相手に応じた行動について考え，探検の計画や約束を決めたりしている。	
	2		②その場に応じた行動を心掛けながら活動している。	①地域には，様々な場所があることや，そこで働く人々がいることに気付いている。 ②地域にある様々な場所や人々が，自分の生活を支えていることに気付いている。
	3	②１回目の探検を基に２回目の探検についての楽しみながら計画を立てようとしている。 ③地域にある様々な場所や人々と，楽しくかかわろうとしている。		
	4		③探検で分かったことや楽しかったこと，工夫したことについて，自分なりにすなおに表現している。	③地域のよさや親しみを感じる場所や人々が増えたこと，かかわり方が変わった自分に気付いている。

4　単元の指導と評価の計画(14時間)

小単元名(時数)	主な活動	評価規準	評価方法
1 自分の町を紹介しよう (3)	[小単元の目標]自分たちが生活している地域の様々な場所や人々に関心をもち，探検したい場所や会ってみたい人々を選び，探検の計画を立てることができるようにする。		
	○自分が生活している地域の場所や人などについて紹介する。	**関①**：自分が生活している地域の場所や人に関心をもちかかわろうとしている。	**発言内容･行動観察** 地域の様子について発言している内容や様子，発言している子どもの表情や行動(笑顔･身を乗り出す等)を見取る。
	○探検したい場所や会ってみたい人を決め，町探検の計画を立てる。	**思①**：探検したい場所や相手に応じた行動について考え，探検の計画や約束を決めたりしている。	**計画書の内容・発言内容** 自分が探検したい場所や人を選び，探検で調べたいことや聞きたいこと等にあげている内容を見取る。
2 自分の町を探検してみよう (5)	[小単元の目標]町探検を通して，地域にある様々な場所を訪問したり利用したりすることを通して，自分たちの生活は様々な場所や地域で生活したり働いている人々とかかわっていることなどが分かるようにする。		
	○グループで協力し合いながら，町探検を行う。	**思②**：その場に応じた行動を心掛けながら活動している。	**行動観察・発言内容** 安全に気を付けながら行動している姿やインタビューをするときの態度，グループで話し合っているときの発言内容を見取る。
	○見たことや聞いたことを，学習カードに記録する。	**気①**：地域には，様々な場所があることや，そこで働く人々がいることに気付いている。	**学習カードの記述内容・発言内容** 学習カードに書かれている施設の楽しさや，その施設で働いている人の思いなどから読み取る。
	○探検を通して発見したことや分かったことを紹介する。	**気②**：地域にある様々な場所や人々が，自分の生活を支えていることに気付いている。	**発表内容・紹介ボードの記述内容** 探検したグループで発表した内容や，質問に答えている内容，紹介ボードに記述されている内容などから読み取る。
3 もっとくわしく調べてみよう (4)	[小単元の目標]２回目の町探検を通して，地域にある様々な場所や人々について，もっと調べたいことや，やってみたい決め，自分の地域に親しみがもてるようにする。		
	○もっと調べたいことや，やってみたいことを決め，探検の計画を立てる。	**関②**：１回目の探検を基に２回目の探検についての楽しみながら計画を立てようとしている。	**行動観察・発言内容** グループで協力し合いながら計画を立てている様子や発言内容を見取る
	○２回目の町探検で，新たに聞いたことや分かった	**関③**：地域にある様々な場所や人々と，楽しくかか	**行動観察・発言内容** 地域の場所や施設，人々とかか

	ことを，学習カードに記録する。 課外(時間外)においても，地域でのかかわりが考えられる。	わろうとしている。	わっている姿やそのときの発言内容，休日等の活動の中で分かったことの報告から見取る。
4 分かったことを紹介しよう （2）	[小単元の目標]町単元を通して，地域のよさや親しみを感じる場所や人々が増えたことやかかわり方が変わったことに気付き，これからも地域の場所や人々にかかわり続けようとすることができる。		
	○２回目の探検を通して発見したことや分かったことを紹介する。 ○これまでの探検を振り返り，分かったことや感じたことを学習カードに書く。	**思③**：探検で分かったことや楽しかったこと，工夫したことについて，自分なりにすなおに表現している。 **気③**：地域のよさや親しみを感じる場所や人々が増えたこと，かかわり方が変わった自分に気付いている。	**発表内容・発表方法** 発表内容や発表ボードに書かれている内容から，活動の中で考えたことや工夫していたことなどを聞き取る。 **作文内容** 作文に書かれている内容から，自分の変化について書かれていることを読み取る。

小学校生活科における学習評価事例２

■　一単位時間の中で，指導に生かすための評価と，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために　収集する評価との違いが分かる事例

○**単元名**　みつけた　あきで　あそんじゃえ　第１学年　内容(５)「季節の変化と生活」
(６)「自然や物を使った遊び」

本単元は，17時間計画の単元である。まず，身の回りの秋の様子について興味･関心をもたせ，秋の公園などで十分遊ばせる。その後，秋を感じる木の実や木の葉などを集め，それらを使って遊ぶものや飾るものを作ったり，遊んだりする。ここでは，作ったり遊んだりする活動の展開案を基に説明する。

１　本時の目標

作ったり遊んだりしながら見付けた作り方や楽しさの秘密を，ワークシートにことばや絵ですなおに表現することができるようにする。

２　本時の評価規準

作り方や遊び方，友達と楽しく遊ぶことについて振り返り，自分が考えたり工夫したりしたことを，自分なりの絵やことばですなおに表現している。　(活動や体験についての思考・表現)

3　本時の指導と評価の計画

主な学習活動	◇主な評価の方法の具体例とその進め方
○身の回りある秋のものを使って，おもちゃや飾るものを作ったり，作ったもので遊んだりする。	ここでは，本時の目標を達成するために，形成的な評価を行う。主な方法と見取っていく姿としては，以下の通りである。 **行動観察・発言内容** ・動きを確かめながらおもちゃを作っている。 ・自分の思いに合った木の実や木の葉を選びながら，飾りを作っている。 ・作ったおもちゃを使って遊んでいる。 具体的には，材料を見比べている姿や，友達と一緒に遊んでいる姿，遊んだ後に作り直している姿などを観察する。また，活動内容については，必要に応じて児童に問い掛けをするなどしながら，児童の活動を正確に把握していく。 この段階で，活動が滞っている児童や一人で遊んでいる児童に対しては，次のような支援を行い，活動の活性化を図る。 **支援例** **・どんなことにつまずいているか問い掛け，同じような活動をしている児童を紹介する。** **・ヒントコーナーを設定している場合は，ヒントコーナーを参考にするよう促す。** **・すでにおもちゃで遊んでいる児童を紹介したり，競争して遊ぶことを促したりする。** 上手に作り上げることではなく，楽しく作ることや遊ぶことを通して，秋の楽しさに触れさせることが大切である。そのため，必要に応じて友達と一緒に作ることを促すことも大切な支援である。 ここで見取ったことは，本時の目標を評価する際に生かすことができるので，必要に応じて記録しておくことも大切である。
○作ったり遊んだりした活動を振り返り，作り方や遊び方で自分が考えたことや工夫したこと，また，作ったり遊んだりして楽しかったことを，自分なりにすなおに表現する。	**◇ワークシートの記述内容・ワークシートに記述する様子** 「おおむね満足できる」状況(Ｂ) ・考えたことや工夫したこと，楽しかったことをワークシートに絵やことばで表現している。 ここでは，おもちゃや飾りの作り方や遊び方について，また，楽しかったことに対する記述について評価していく。低学年の児童は，語彙が少なく簡単な表現で書き表すことが多い。必要に応じて，児童に問い掛けたり，活動の様子について振り返らせたりする。また，「努力を要する」（Ｃ）の児童を出さないためにも，かき表すことができないでいるの児童に対しては，これまでに見取ったことを基に児童の活動の様子について話したり，活動の様子を写した写真を見せたり，ワークシートを読み返させたりしながら，どのような活動をしていたか振り返らせることが大切である。 ここでの評価は，通知表や指導要録の観点別評価のために収集する評価になるので，確実に記録として残す。

小学校生活科における学習評価事例３

■「身近な環境や自分についての気付き」の評価の進め方が分かる事例

○**単元名**　おやさい いっぱい 大さくせん 第２学年 内容(７)「動植物の飼育・栽培」

本単元は，17時間計画の単元である。まず，育てたい野菜を決め，その種や苗を植える活動を行う。その後，野菜の世話を通して，野菜の成長の様子や野菜を育てる楽しさに触れさせるようにする。そして，成長した野菜を収穫したり食したりする喜びを味わわせるようにする。ここでは，育てていく過程においての展開案をもとに説明する。

１　本時の目標

これまで行ってきた野菜の世話について紹介し合わせることで，それぞれの野菜に合った世話の仕方があることに気付かせる。

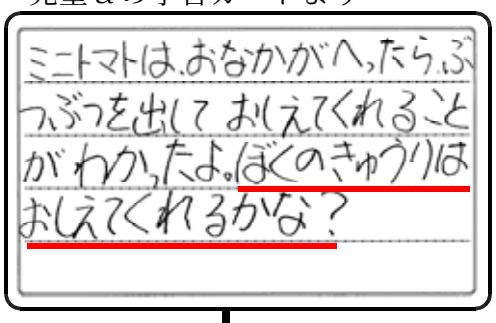
２　本時の評価規準

友達の育て方と自分の育て方を比べることで，育てている野菜に合った世話の仕方があることに気付いている。　(身近な環境や自分についての気付き)

３　本時の展開と評価のポイント

主な学習活動	◇主な評価方法とその具体例
１　自分の世話の仕方について確かめる。 ２　二人組になってお互いの世話の仕方を紹介し合う。 ３　違う野菜を育てている友達にお互いの世話の仕方を紹介し合う。 ４　交流をしていく中で分かったことや発見したことを発表する。 ５　次の活動で取り組んでみたい世話の仕方について学習カードに書く。	**◇学習カードの記述内容･交流活動での発言の内容** まず，紹介するために準備している学習カードに記述している内容については，本時の前までに把握しておくことが大切である。その内容によってペアリングやグループイングを行えば，教師がねらう気付きの深まりや広がりが期待できる。 本時においては，友達の世話の仕方と比べさせることで，それまで無自覚だった活動を自覚させたり，野菜の世話の仕方について共通点や相違点があること等に気付かせる。 ここでの評価は，学習カードの記述内容だけでなく，交流中の「あっ，それ僕もやった。」や「へえ，僕と違うね。」といった発言なども見取るようにすることで，より正確な評価へとつなげる。

・児童ａの学習カードより



児童ａは，交流を通して、ミニトマトの世話の仕方について「おなかがへり(肥料が足りなくなり)茎からブツブツが出た」ときは，肥料をあげるとよいことを知った。また，学習カードの下線にある「おしえてくれるかな」から，自分のきゅうりの成長の様子と比べていることがうかがえる。児童ａは，ミニトマトの世話の仕方をきゅうりの世話に生かそうとしていると考える。

・交流中の児童ａの発言より

ミニトマトの世話の仕方の紹介に対して，「きゅうりと違う。」や「えっ，きゅうりにはなかったよ。」と発言していることから，きゅうりの成長の様子を振り返り，野菜の成長の仕方の違いに気付いていることがうかがえる。

児童ａの学習カードと発言内容から，それぞれの野菜にあった世話の仕方があることには気付いていないが，世話の仕方の違いにつながる感想を書き記していることから「おおむね満足できる」状況(Ｂ)であると判断した。

小学校生活科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　生活科では，気付きの質を高めることが求められていますが，そのための学習活動として，具体的にどのようなものがありますか。また，どう評価していけばよいですか。

Ａ　今回の学習指導要領の中で，気付きの質的な向上として次の三つが挙げられています。

①　無自覚なものから自覚したものへ
②　単独の気付きから関連付けられた気付きへ
③　対象への気付きから自分自身の成長への気付きへ

それぞれについて考えられる学習活動と評価を紹介します。

①　無自覚なものから自覚したものへ

これは，「あっ！」ということばで表すことができるでしょう。つまり，無意識に行っていたことを，活動を振り返ったときや他者のことばなどによって，明確になった気付きを指します。この，「あっ！」を促す活動としては，授業や単元の終末に行っている「振り返り表現する活動」があります。ここでは，自分が考えたことや工夫したことなどを振り返らせ，ことばや絵で表現させることで，自覚を促します。

他にも，友達の紹介や発表を自分の活動と比べさせることで自覚させることも考えられます。例えば，行ってきた活動について紹介する場を設定し，自分のものと友達のものとを比べさせることで，自分が自覚していなかったことを自覚させることもできるでしょう。

②　単独の気付きから関連付けられた気付きへ

関連付けられた気付きへと高まるためには，繰り返し対象にかかわる時間を保証してあげることが重要です。対象にかかわる時間が少なければ少ないほど対象に対する気付きでとどまってしまいがちになります。そのため，単元計画の段階において繰り返し対象とかかわることができるように単元構成を工夫しておくとよいでしょう。

例えば栽培活動においては，「お水をあげたら，元気になったよ」という気付きは，繰り返し対象とかかわっていく中で，水を与える前と後を比べ「元気になった」ことに気付いています。つまり，「元気になった」という現象と「お水をあげた」という行為を関連付けていると考えられます。このように，活動を繰り返すことは対象とのかかわりを深め，関連付けられた気付きへと高めていくことにつながります。

③　対象への自分自身の成長への気付きへ

代表的な学習活動としては，「ポートフォリオによる振り返り」があるでしょう。これまでの活動を振り返ることで，たくさんのことを考えたり工夫したりしている自分や育て上げたり作り上げたりした自分に気付くことができます。

また，単元の終末に振り返り表現する活動を設定することもいいでしょう。これまでの活動を楽しく表現させることで，自分の成長を楽しんだり喜んだりすることにもつながります。自分の発表だけで終わらず，このような活動の中に他者から評価してもらう場面を設定すれば，自分が気付かなかった成長にも気付くことができるでしょう。

以上のような活動を設定することで，気付きの質的な向上を図っていきます。

これらの気付きを評価するにあたっては，学習カードに書き記していることを中心に評価していきます。しかしながら，低学年という発達段階を考えたとき，単に記述内容のみで評価をしていくだけでは，児童の気付きを正確に評価したことにはなりません。日頃の発言内容を記録しておいたり，記述した内容に対して問い掛けたりしながら評価していく必要があります。

また，上記③にもあるように，対象への気付きから自分自身への気付きへと高めていく必要もあります。児童の発言内容に対して「～ができるようになったんだね。」「～が分かるようになったね。」などと，児童の成長につながるような声掛けも大切になってきます。

Q　児童が自主的に行った授業以外での活動を，どのように評価すればよいのでしょうか。

A　児童は，活動に対する興味や関心が強ければ強いほど，授業以外での活動が活発になってきます。例えば，おもちゃ作りに取り組んでいるときには，休み時間や帰宅後の時間を利用しながらおもちゃ作りに没頭することでしょう。また，休み時間になると，作ったおもちゃを使って夢中で遊んだりもします。このような児童の様子は，活動に対する意欲の表れとして評価することができます。

また，町探検においても，自ら地域に出かけ施設を利用してみたりインタビューを行ったりする場合が出てきます。そのような児童は，新たに分かったことや楽しかったことを，決まって報告に来たりするものです。そのようなときは，児童の話に耳を傾け，内容によっては，地域に対する気付きとして評価することができます。

栽培活動においては，芽が出た瞬間や花が咲いた瞬間の児童の思いや成長への気付きを大切にしたいものです。低学年の児童は，その瞬間を発見したときには，感動し，すぐに報告したがります。しかし，伝えることを苦手としている児童もいることでしょう。そこで，成長に対する気付きなどをいつでも記録できるように，学習カードを常備しておくことも大切な手立てとなります。そこに記録されている内容は，評価の対象とし，評価していくだけでなく，児童に活動の記録として保存させておきましょう。

生活科では，学んだことを自分の生活に生かしていくことを大切にしながら指導していきます。授業以外でも活動している児童の姿は，自分の生活に生かそうとしている姿とも取れます。授業の延長と捉え，設定した評価規準に照らし合わせながら評価していくことが大切です。

Q　「活動や体験についての思考・表現」を評価するとき，どのようなことを見取っていけばよいのでしょうか。

A　今回，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」にある「評価の観点及びその趣旨」に書かれている文言を見てみると，「具体的な活動や体験について，自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現している。」とある。そこでこの観点では，児童がどのようなことを考え，どう工夫しているのかを見取っていきます。

例えば，栽培活動を行っている場面においては，活動当初，児童は毎日水やりをしようと考えていることでしょう。しかし，活動を繰り返していく中で，土が乾いたときにだけ水やりをしていくようになる児童も現れます。ここには，児童なりの考えや工夫が表れています。行動だけでは評価できない場合には，児童に問い掛けるなどしながら評価していきましょう。

おもちゃ作りの場面においては，設計図に書かれている内容と実際に活動している姿との違いからも見取ることができます。設計図には，活動当初の児童の考えが記されています。活動を繰り返しながら試行錯誤していく中で，作り方や材料を工夫していきながら，児童が思い描いていた活動と違う活動をするようになることでしょう。ここに，児童なりの考えや工夫が表れています。児童の活動当初の様子と現在の様子とを見比べていくことで，児童の思考と表現を見取ることができるでしょう。

また，発表の場面においては，単に発表の出来映えで評価するのではなく，児童なりの表現方法で，発表したい内容を自分のことばで表現できているかを見取り，評価していきましょう。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」(小学校)などを参考にして，作成しています。詳細については，以下のＵＲＬをご参照ください。
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html